

令和5年度 兵庫県立村岡高等学校 学校評価（内部評価・学校関係者評価）

第3期ひょうご教育創造プラン													スクール・ミッション	スクール・ポリシー			教育指針	
1 「生きる力」を育む教育の推進					2 子どもの学びを支える環境の充実					3 人生100年を通じた学びの推進			「人みな使命あり」の理念のもと、課題発見・解決能力、プレゼンテーション能力、新たな価値を創造する能力、コミュニケーション能力、議論する能力、コーディネート能力、自己表現能力を備え、創造的に地球と協働する人材を育成する。	① 目指す人物像：地域を学びのフィールドとした高校生活をおして、創造的に地域と協働できる人物 ② 地域との協働に必要な3つの力Ⅰ「考える力」：課題発見能力、課題解決能力、新たな価値を創造する能力 ③ 地域との協働に必要な3つの力Ⅱ「行動する力」：コミュニケーション能力、コーディネート能力、議論する能力 ④ 地域との協働に必要な3つの力Ⅲ「伝える力」：プレゼンテーション能力、自己表現能力	① 個別最適な学びⅠ：少人数・習熟度別による授業、ICTの活用 ② 個別最適な学びⅡ：特別な配慮を必要とする生徒への対応「替える学習」「加える学習」 ③ 個別最適な学びⅢ：「ガクチカ（学生時代に力を入れたこと）」の蓄積 ④ 地域と協働した学びⅠ：村高発☆地域元気化プロジェクト、全校スタッフ ⑤ 地域と協働した学びⅡ：村高だけの学校設定教科・科目「地域協働活動」「地域探求」	①なにを？：村高の授業をとおして高めた経験値を活かして、進路実現する意欲のある人 ②だれと？：多様な仲間とともに、豊富な特別講師や地域の人と協働して学ぶ意欲のある人 ③どこで？：村岡の大自然豊かな地域全体をフィールドとして学ぶ意欲のある人		
評価は4点満点。Aを4点、Bを3点、Cを2点、Dを1点とし、回答した教職員の平均点を評価の数値とした。																		
評価項目													R5 評価	評価と改善プラン		学校関係者評価		
I 地域との協働、家庭との連携による教育活動の充実													《スクール・ミッションより》			地域活動を積極的にされている。そのことが今後の進路において、学んだことが何にどう活かされるのかというビジョンが生徒に伝わればよい。		
													1	PTAや家庭との連携により生徒理解を進め、生活指導や進路指導に生かしている。	3.1		三者懇談会等あらゆる機会を通して、家庭との連携を図りながら指導にあたっている。今後とも生徒のキャリア形成に繋がるように、さらにPTA・家庭との連携を進めていきたい。	どの程度の進路の情報を提供すればよいかを探るのが非常に難しくなっている。進路が多様化しているため、どのような情報が欲しいのかが非常に難しいところだと思う。
													2	ホームページや学校通信等により、地域へ適切に情報発信している。	3.7		「村高だより」やホームページ「続 村高生活」等を通して、地域への情報発信ができた。	
													3	地域資源（環境資源・人的資源）を積極的に活用し、教育活動の充実を図っている。	3.7		学校設定教科「地域探求」「表現」や総合的な探究の時間等において、地域資源の積極的な活用により、コロナ禍以前以上の活動の充実を図ることができた。	
													4	関係機関や大学との連携により教育活動を活性化し、生徒の多分野への興味・関心を高めている。	3.5		関係機関や大学との連携はもろんであるが、地域の小・中学校へのアウトリーチ。特別支援学校との交流授業などを通して、生徒の多分野への興味・関心を高めるきっかけづくりができた。	
													5	地域を学びの場とすることで、生徒の地域への理解を深め、ふるさと意識を醸成している。	3.7	地域協働活動を通して生徒が自身の経験値を高めることができた割合は95%と高く、ふるさと意識の醸成に繋がっているものと考えている。		
II 主体的な学び、確かな学力の定着													《グラデュエーション・ポリシー、カリキュラム・ポリシーより》			授業内容があまり理解できていない生徒の割合が11%（保護者の割合は17%）、他者に思いやりを持つ雰囲気がないと感じている生徒の割合が13%（保護者の割合は6%）というあたりが進路に影響を及ぼしているのではないかと、生徒が進路実現するためには目標の明確化が必要だが、その部分でつまづいているか、それとも学力がついてこないのか、支え合う友達関係ができていないのかを細かく見ていくことが求められているように感じる。		
													1	少人数・習熟度別授業、ICT機器の活用等により、授業の充実を図っている。	3.7		ペアワークやグループワーク、タブレットの活用などを通して、授業の充実を図ることができた。	
													2	学校設定教科・科目は、地域と協働する探究活動として、生徒の「考える力」「行動する力」「伝える力」を育成している。	3.4		生徒の「伝える力」は育成できていると考えている。「考える力」「行動する力」のさらなる向上を目指したい。	
													3	総合的な探究の時間は、地域貢献だけでなく、生徒の協働する力やコミュニケーション力を育成している。	3.4		地域貢献からさらに協働する力を高める教育活動を一層推進したい。また、生徒が主体的に活動できる形態へのリニューアルを図りたい。	
													4	教科、学校設定教科・科目、総合的な探究の時間は教科横断的な側面を持ち、アクティブラーニングとなっている。	2.9		教科横断的な学習は十分にできていない。来年度から全県でスタートする食に関する指導の全体計画をきっかけに教科横断的な学びへ繋げたい。	
													5	学校設定教科・科目、総合的な探究の時間は、その活動をまとめたプレゼンテーションを行い、汎用効果を高めている。	3.4		総合的な探究の時間においては、縦割り班で上級生から下級生へ引き継がれる体制ができていて、今後、さらなる内容の充実により、プレゼンテーションの汎用効果を一層高めたい。	
													6	特別な配慮を必要とする生徒への対応を行っている。	3.7		特別支援教育委員会やサポート会議等を通して、特別な配慮を必要とする生徒への対応策を検討し、さらには成功事例を他の生徒の困りごとの解決に活かせるようになってきた。	
													7	学校行事は生徒の経験値を高め、達成感を涵養し、自己有用感を高めるものとなっている。	3.6		学校行事によって高校生活が充実している生徒の割合が95%と高く、自己有用感を高めるきっかけとなっている。	
													8	教科学習を含めた3年間の学びを、進路実現に繋げている。	3.0		学習内容が各自が希望している進路とどう結びつけているかが不明確なのかもしれない。希望者対象の補習を実施するなど、進路実現に繋げる取組も進展してきている。	
													9	学校教育活動全般において、グラデュエーション・ポリシーにおいて育成を目指す能力の充実に取り組んでいる。	3.2		地域協働活動等の場面においては、一定の取組はできていると考えられる。今後、教科横断的な取組を通じて、学校教育活動全般の取組となるように推進したい。	
													10	【1年】基礎学力の定着、主体性を育むための自主学習の習慣化を図る。	3.3		小テスト、ゲーグルクラスルームによる課題配信等を通して、基礎学力の定着や学習の習慣化を図る取組を進めている。今後、主体的な学習へと繋がるよう支援したい。	
													11	【2年】生徒一人一人の進路意識の向上と、進路目標の明確化を図る。	3.3		進路ホームルームや学級担任による面談等を通して、個々の生徒が進路目標を持てるようになっている。今後、進路実現に向けての取組をさらに推進したい。	
													12	【3年】授業で得た知識や技能、行事等での経験をもとに自身の考えを積極的に発信し、進路実現に繋げる。	3.4	総合型選抜や学校推薦型選抜において、積極的な発信により個々の進路実現に繋げることができている。より良いものができるようにさらに改善したい。		
III 人材の育成について													《スクール・ミッション、グラデュエーション・ポリシーより》			生徒は、中学生ぐらいから将来何になりたいかを少しずつつ考えるようになると思う。高校3年生になると進路先を決めなければならないので、高校生の早いうちから生徒から話を聞きながら固めていくほうがよいと思う。		
													1	生徒面談や「いじめアンケート」等を通して生徒の実態を把握し、学校生活を円滑に送れるよう適切な指導を行っている。	3.9		平日頃より生徒観察をしっかりと行い、面談やアンケートにより生徒の実態を把握できている。教職員間の情報交換を行いながら、組織的対応により指導を行っている。	
													2	教育相談や生徒面談を行い、生徒一人一人の理解と情報共有に努めている。	3.8		平日頃より生徒理解に努め、教育相談委員会等の場において定期的に情報共有ができていく。	
													3	学校教育活動全般（生徒会活動、部活動等を含む）は、生徒の責任感やリーダーシップ、思いやりなどを涵養している。	3.6		生徒一人一人の活躍の場を活かして、生徒の経験値を高め、生徒の責任感やリーダーシップなどを涵養できている。	
													4	【健康・安全教育、防災教育】保健だよりや救急救命講習などを通して、健康や安全に対する意識を高めている。	3.5		養護教諭、保健委員が保健だよりを通して健康に対する意識を高める記事を書き、周知できている。また、救急救命講習等を通して、安全に対する意識向上に繋がられている。	
													5	【社会人キャリア教育】家庭科等の授業や地域人材による授業、外部講師による消費者教育、ライフプランニング講座を通して社会参画への意欲を育成する。	3.3		多様な地域人材による授業、他地域で活躍されている人材によるライフプランニング講座等を通して、社会参画への意欲の育成に繋がられている。	
													6	【1年】他者への思いやりの気持ちを育て、互いを認め理解し助け合える人間関係を育成する。	3.5		数値では測りにくいですが、他者への思いやりの気持ちが着実に育っている。挨拶もできている。	
													7	【2年】集団に寄与できる生徒の育成と、互いを高め合う人間関係を構築する。	3.3		生徒は着実に成長しており、類型授業や探究活動などを通してリーダーシップを発揮できるようになったり主体的に行動できるようになっており、集団に寄与できる生徒の育成に繋がっている。	
													8	【3年】諸活動において、リーダーシップを発揮できる人材の育成と社会性を涵養する。	3.4	最高学年として、村高祭などあらゆる活動でリーダーシップを発揮することができた。		